

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第十四主日礼拝 2020年9月6日

前奏：

招きのことば：詩編 119:9-16

どのようにして、若者は 歩む道を清めるべきでしょうか。| あなたの御言葉どおりに道を保つことです。| 心を尽くしてわたしはあなたを尋ね求めます。| あなたの戒めから迷い出ることのないようにしてください。| わたしは仰せを心に納めています。あなたに対して過ちを犯すことのないように。| 主よ、あなたをたたえます。あなたの掟を教えてください。| あなたの口から与えられた裁きを。| わたしの唇がひとつひとつ物語りますように。| どのような財宝よりも あなたの定めに従う道を喜びとしますように。| わたしはあなたの命令に心を砕きあなたの道に目を注ぎます。| わたしはあなたの掟を楽しみとし | 御言葉を決して忘れません。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

み言葉の部

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたは自己中心で罪に満ちた私たちを、イエス様の十字架と復活によって赦していただき、あたたかい心を与えてくださいます。そればかりか、私たちがいつも悔い改めてあなたの赦しに立ち返ることができるように、イエス様のいのちとともにあずかる主にある兄弟姉妹をお与えくださっています。今朝もともに主の前に悔いし砕けた思いをもって私たちは集っています。きよい神様の御前でイエス様によって赦しの宣言を聞いて、はればれとすがすがしいあたたかい心で一週間を始めます。そして聖餐の恵みによってイエス様の血とからだにあずかる私たちは、イエス様の罪の赦しを必要としているお互いとして愛し合い、励ましあい、高めあっていく交わりとしてさらに育てていただけますようにと祈ります。お互いを大切にして、心にかけて祈りあい、支えあうものとならせてください。

新型コロナ・ウィルスの2次感染拡大の心配を持ちながら、私たちは慎重に新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちに教え、新しい命の息吹で力づけてください。今週も、私たちの遣わされている所で、御名のみ栄のために歩ませてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：ローマ13章8-14節

互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあつてはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな」、そのほかどんな掟があつても、「隣人を自分のように愛しなさい」という言葉に要約されます。愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。

更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。日中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に心を用いてはなりません。

福音書朗読：マタイによる福音書18章15-20節

「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。

聞き入れなければ、ほかに一人か二人、一緒に連れて行きなさい。すべてのことが、二人または三人の証人の口によって確定されるようになるためである。

それでも聞き入れなければ、教会に申し出なさい。教会の言うことも聞き入れないなら、その人を異邦人か徴税人と同様に見なしなさい。

はっきり言うておく。あなたがたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐれ、あなたがたが地上で解くことは、天上でも解かれる。

また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」

讚美歌 502 番

1. いともかしこし イエスの恵み、罪に死にたる 身をも活かす。

主よりたまわる あめの糧に 飢えし心も 飽き足らいぬ。

〈繰り返し〉 世にあるかぎり、君の栄えと、いつくしみとを 語り伝えん。

2. 救いの恵み 告ぐるわれは 楽しみあふれ 歌とぞなる。

滅びをいでし この喜び、あまねく人に 得させまほし。

〈繰り返し〉

3. くすしき恵み あまねく満ち、あるに甲斐なき われをも召し、

あまつ世継ぎと なし給えば、たれか洩るべき 主の救いに。

〈繰り返し〉 **アーメン**

説教「心をひとつにして求める」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様を信じる私たちはイエス様によってただしく罪赦されて、あたらしい命をいただいています。毎週礼拝で、罪を悔い改めて赦しの宣言をきいて、安心して生活の場に遣わされます。

しかし、今日ご一緒にお聞きしたイエス様のみ言葉には、主イエス様を信じる兄弟姉妹も罪を犯すというショッキングな事実が書かれています。クリスチャンも罪を犯す、ということです。それが現実です。時にはあなたを知ってか知らないでか傷つけます。そのようにして神様に罪を犯す兄弟がいる、とイエス様は言われます。

正しく歩まない理由はいろいろあるのでしょうか。けれどもクリスチャンの人が、かたくなで、高慢で、ひとりよがりである感じたら、私たちは眉をひそめて、かかわらないようにしたい、そのような現実には認めたくない、と思うものです。どうして素直になれないんだろう、と心の中で責めます。クリスチャンが罪人であると困るのです。正しく歩んでほしいのです。どのように接していいかわからなくなります。時間が解決すると信じてようすを見ることしか思い浮かびません。

イエス様はそんなときどうするかを教えてください。行ってふたりだけのところで忠告しなさい、聞き入れたらほんとうに兄弟を得たことになる、聞き入れなかったらふたりか三人で行きなさい、それでも聞き入れなかったら教会に申し出なさい、それでも聞き入れなかったら異邦人が徴税人と同様にみなしなさい、とおっしゃいました。

罪を犯す兄弟に、積極的に自分から忠告するように、と言われますが、皆さんはすぐに、そうか、そうしたらいいのか、と思われましたか。そんなことをしたら相手に気分を害されますね。これからの関係にひびが入りますね。そんな勇氣はありませんね。自分が人の罪を指摘するような自信もありません。また、それはとても高慢なことにも思います。イエス様は人を裁かないように、人の目にある塵を取らせてください、という前に自分の目の梁に気づくように、と言われたのではなかったでしょうか。

よくありがちなのは、人の罪を放っておく態度です。それは人間だから、弱いから、完ぺきではないのだから仕方ないのではないですか、いちいち気にしていたらきりがないので、それくらい目をつぶらないといけないのではないですかというあきらめとため息です。そのような交わりでは罪びとが放置されて、教会に集っているのに、赦し主のイエス様が来てくださっているのに、無視をして罪がめだたなくなるのを待つ態度です。イエス様は迷ってしまった1匹の羊を見捨てないで、見つかるまで追い求めてくださる方です。自分で離れていってしまったのだから仕方がない、帰ってくる気持ちになるまで待っていようとは思われません。

また、それとは逆に、批判的になる場合もあります。あの人はああいうところが未熟だ、こういうところがひとりよがりだ、周りのことを考えないで自分中心だ、というように、人の罪が気になり、指摘し、ときにはかげで噂をよくなする態度です。これこそ人の目の中にある塵をとらせてください、という自分の目に、大きな梁があるのに気づいていない高慢な態度ではないでしょうか。

一般社会ではそうでしょう。けれどもイエス様にある交わりは少し違います。クリスチャンの交わりは、救い主イエス様の赦しといのちにあずかっている人々の交わりです。イエス様を共有しています。クリスチャンも罪を犯します。いや、私も罪を日々犯して歩んでいます。自分もイエス様の赦しを必要としています。洗礼によって与えられた神様の恵みのもとにとどまって、自分の努力や精進によるのではなく、ただ神様の恵みとイエス様の贖いのみわざを信仰をもって受け取って歩んでいます。クリスチャンの交わりとは、悔い改めてイエス様の赦しにあずかり続けるお互いの交わりなのです。私もイエス様の赦しを必要としている同じ罪びとなのですから、一緒に悔い改めてイエス様の赦しを受けましょう、とお声をかけること、一緒に苦しみ、一緒に悔い改めるのです。それが互いに愛し合う姿です。

だれかがあなたとの約束を破ったとします。そのとき、あなたはいつもそうだ、反省してください、という一見正義を守っている態度をとるか、人ってそんなものだ、約束は守れないのがあたりまえだ、と一見心が広いような態度をとるか、ということが多いのではないのでしょうか。

イエス様は罪を犯してしまうあなたに対して、反省しなさい、というだけでなく、しかたがないから大目に見ます、ということもなさいません。イエス様は私たちが罪をうやむやにすることによって、私たちが罪を犯してしまった過去にとらわれて生きていくことを願っておられません。また、未来に改善するのを待っておられるのでもありません。今、あなたが自分の罪を認めてそれが神様から身を隠し、自分中心に歩むことしかできない、自分で変えることのできないわがままな衝動にとらえられている罪の奴隷であることを認めるように導いてくださいます。それはあなたを倒して、立ち上がれなくなるようにするためではなく、イエス様がそんなあなたが神様に赦されて新しい心が与えられるために、ご自分のいのちを十字架の上で与えてくださるほどにあなたをいつくしみ、大切にしてくださいることを信じるためです。悔い改めと信仰に導いてくださるのです。

教会では愛をもって真実を語りあいます。当然のことですが、罪を犯している人をいたずらに責めたり、恥をかかせて喜ぶところではありません。愛をもって真実を語ります。はじめはその人に恥をかかせたり、傷つけたりする目的ではないことを明らかにするためにひとりで話します。ともに悔い改めて祈るためです。外面的な友情ではなく、深い、イエス様の赦しを共有する兄弟を得ることになります。その人を自分が神様ようになって裁いたり責めたりするのではなくて、罪を犯してしまう状況を心から理解し、受け入れ、共感し、涙するとともに、だからこそ悔い改めてイエス様の赦しにあずかることを思い起こしていただくのです。

けれども人の心はなかなかたくなです。少しのことでは癒されず、自分の主張、自分の誇りを手放すことは難しいものです。ひとりでお話してみてもむずかしければ2人か3人で話します。20節にあるように、ふたりまた三人がイエス様のお名前によって集まるところに、イエス様もいてくださる、と約束されています。罪の赦しがあるのですから、罪を犯している人に、自分と一緒に悔い改めてイエス様の赦しにあずかって新しい心をいただくように励ましあうのです。互いに大切にするとというのは、生涯悔い改めにとどまることを促しあうということなのです。ともにイエス様の赦しにあずかるように、イエス様のあたらしいいのちにあずかるように祈る交わりの中に、イエス様がいてくださるのです。

教会は人の罪をそのままにしておくところではなく、愛をもって真実に自らもともに悔い改め、イエス様の赦しにあずかり続け、新しいいのちに生かされ続ける、イエス様にある生き生きしたいのちのあふれるところです。自分の罪との戦いを理解して、悔い改めと信仰にとどまって歩んでいけるように祈っていただける友を持つことはとても素晴らしいことです。イエス様は

そこに「わたしもその中にいる」と言ってくださいました。あなたへの責めを進んでご自分に引き受けてくださったイエス様がいてくださるところに本当の解決と希望があります。

今日も聖餐によってイエス様はご自分の流された血、さかれた体は、聖餐にあずかるあなたのためだったことを改めて確かなものにしていただきます。私たちの共通点はイエス様の赦しといのちにあずかるお互い、つまりイエス様にあずかっていることです。口先だけの交わりではなく、愛と真実の交わりです。最大の祝福は罪を赦され続け、新しいいのちにいき続けることです。ともにイエス様の赦しといのちにあずかり続けるように励ましあいましょう。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン。

聖餐の部

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 1 節 2 節

1. 主の食卓を囲み、いのちのパンをいただき、救いの杯を飲み、主にあって我らはひとつ。

〈繰り返し〉 マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。X2

2. 主の十字架を思い、主の復活をたたえ、主のみ国を待ち望み、主にあって我らは生きる。

〈繰り返し〉

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

設定辞

「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。アーメン。

また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。アーメン」

配餐 讃美歌 205 番、260 番、262 番

赦しの宣言

主イエスのまことのからだ、まことの血は、あなたをきよめ、あなたを強め、永遠のいのちにいらせてくださいます。あなたの罪は赦されました。安心していきなさい。 **アーメン**

主の食卓を囲み 讃美歌 21 81 番 3 節

3. 主の呼びかけに応え、主の御言葉に従い、愛の息吹に満たされ、主にあつて我らは歩む。

〈繰り返し〉 マラナ・タ、マラナ・タ、主のみ国がきますように。 X2

讃美歌 526 番 献金 献金感謝の祈り

1. 主よ、わが主よ、愛の主よ。主は我が身の 救い主。

〈繰り返し〉 かくまで主を 愛するは、今日はじめの こちして。

2. 主は十字架を まず負いて、あいの御手を のべたもう。 〈繰り返し〉

3. 生けるときも 死ぬる日も、声の限り かく歌わん。 〈繰り返し〉

4. たまのかむり 受くるとき、この歌をば 主にささげん。 〈繰り返し〉 **アーメン。**

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊の大御神(おおみかみ) に、ときわに絶えせずみ栄えあれ、み栄えあれ。

アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏